

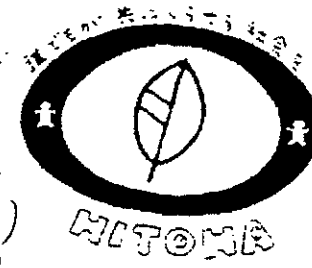
2018年(H30年)

11月

No. 323

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

# ひとはつとむ



社会福祉法人 ひとは福社会  
〒739-1203  
広島県安芸高田市向原町長田1857番地  
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

## 「あの頃は」

通称「竹岡のおばあちゃん」が、96歳で人生の幕を閉じました。

ひとはの創設期、まだ無認可作業所時代には、今から考えると「よくも

まあ…」と思えるほどのいろんな行事がありました。

劇団クヌキ、ジャズピアニスト河野康弘さん、パントマイム村田美穂さんを

はじめ、多様な人たちがやってきました。その際の企画を手伝い、実行委員会を

形成したのは、近在に住む当時の若者たちでした。その若者たちから「竹岡の

おばあちゃん」と慕われたのが、寺尾順子さんのお母さんです。

若者たちの目当ては、企画もさることながら「もうそろそろか」と思う頃に

出てくる手作り料理の数々です。若者たちが集まるとなるとみんな独身者

ですから、おにぎりをはじめおばあちゃんの手作り料理がもう一つの狙いだった

のかもかもしれません。

おばあちゃんが若者たちに慕われたのは、親しみやすい笑顔を絶やさなかつた

からでしょう。河野康弘さんなどは、公演の暇を見つけては2人でのんびり過ご

していたほどです。

おかげで多くの企画が生まれ、多くの出会いが実ります。一時期は、ひとは

の企画の実行委員をする結婚できるという噂さえ流れ、実際には5組以上の

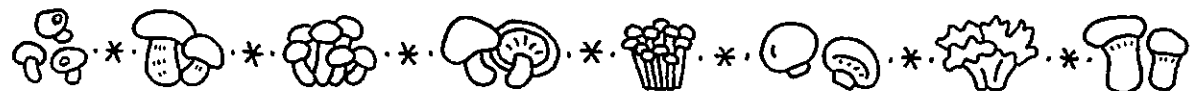
カップルが生まれたんです。

そんな時期を支えてくれた、まさに縁の下のカ持ちです。

今では遠くみんな過ぎていきましたが、ひとはの歴史の確かな確かな

レページです。

(理事長 寺尾 文尚)



## ～ ひとは工房の「押し花製品」生産終了のおしらせ～

この度平成30年10月末をもちまして、押し花名刺をはじめとした

「押し花製品」の生産を終了しました。突然のお知らせとなり申し訳

ありません。長年にわたり99名の皆様に支えていただきました。

本当にありがとうございます。

(編集委員 竹内宏美)

## 後援会員より

福祉とは何ぞや？と  
問い続けてください。  
(東広島市)

いつも  
ありがとうございます!!  
ごさいます!!

「歌のカ」ザ、わたしたちでできること。  
人を地域を仲間を平和を... 頑張り  
いる人を応援する。  
歌を通して社会貢献できる活動を。  
根付いていけるよう、これからもひとはを  
応援していきます。歌いつづけます。(出雲市)

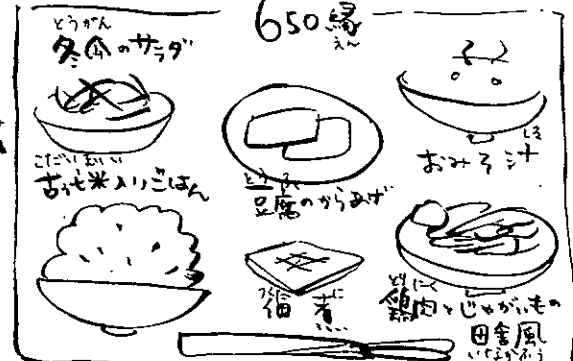
## オサキ亭 レシピコーナー「冬瓜 de サラダ?」

材料 (5人分)

- 冬瓜 - 250g
- 水菜 - 2束 (75g)
- にんじん - 75g

作り方

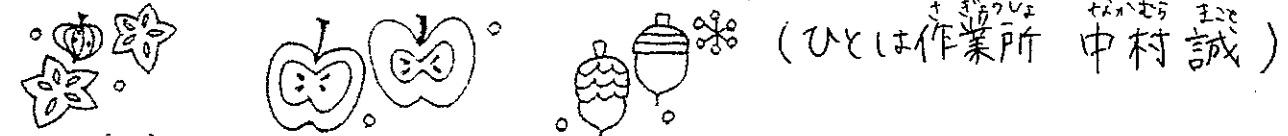
- ① 線切りにした冬瓜を塩もみして5分置き、ある週のおまかせランチしぼる。
- ② にんじんをゆがく。水菜は洗って3~4cmに切る。
- ③ ①を混ぜ合わせ ①②とあえる。



- ④
- ・ピーナツ - 40g (つぶす)
  - ・はちみつ - 大さじ1.5
  - ・レモン汁 - 大さじ1.5
  - ・たかのめ - お好みで

作業所きらら旅行 in 山口 9月14日～15日 泊2日

私は小野さんのパートナーでした。海響館では自分のデジカメでいろんな魚を撮りました。また、夜の宴会では料理を完食し、カラオケでは西城秀樹の「ヤングマン」を、自分が楽しむばかりでなく、場を盛り上げみんなも楽しませました。小野さんの日ごろ見られたい意外な面を見ることができました。

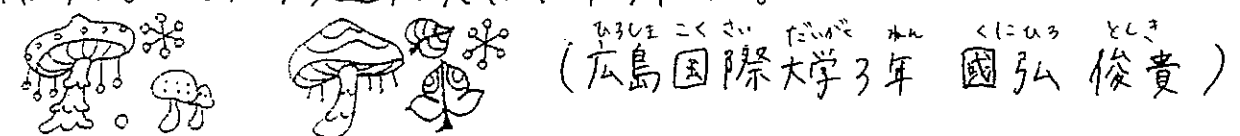


(ひとは作業所 中村誠)

実習中に旅行に参加し、植田さんとパートナーを組んだ。1日目の夕食時、

隣の植田さんはあまり食事が進まなかった。私は「ごはん食べましょ？」という声かけせ、食べやすそうなものを集めるなど、色々試してみたが、中々進まない。悩んでいた時、スタッフの方が来て「だいさん、ごはん食べましょ！」と声をかけた瞬間、植田さんは食事を口元に運んだ。

一緒に食事を楽しみたいと思った私は、スタッフの方に負けないう声かけ続けた。すると植田さんは少しずつだか食べ始め、「おいしい！」という言葉が聞けた。その時の達成感忘れられない。



(広島国際大学3年 國弘 俊貴)

旅行当日、2年ぶりにボランティアに参加した私は「覚えてくれているだろうか...」とドキドキでした。でも、いざバスに乗ると以前と変わらず温かく迎え入れてくれるきららの仲間たち。そんな雰囲気がかとても好きで、私も自然と笑顔になります。観光名所を巡り、お買い物を楽しみ、山口の美味しい料理を食べ、温泉でくつろぎ...。みんなが思い思いに満喫できた旅行になりました。(ボランティアより)



「Yくんのすごいところ」

高校2年生のYくんが、ひとはぼろこを利用して始めて1年が経とうとしています。私はYくんのすごいところをたくさん見ってきました。いつもニコニコしているところ、文字が丁寧で間違いがないところ。Yくんは発語が少なく、スタッフとのコミュニケーションは文字を書くことで行います。Yくんの頭の中には数えきれないほどの言葉があり、裏紙を使い、迎えがくるまでスタッフと文字の会話を繰り返しています。テーブル拭きも上手で、小学生達のお手本となっている、大きな体のYくんです。



(ひとはぼろこ 桑野 郁子)

「嬉しかったこと」

貞近さんのケース担当1年目の私は、「靴がボロくなったけえ、新しい靴を買ってきてくれん？」と頼まれました。後日 買い物に行き、貞近さんに手渡すと、笑顔で何度も何度も深くと頭を下げて「ありがとう」と大きな声で言ってくれました。自分自身とても嬉しくなりました。

9月に89歳を迎えられた貞近さんの軽快な足取りに、新しい黒い靴が映えます。(共同ホーム ひとは 沖本 英之)

「感謝し...」  
 今年の春に母が亡くなりました。長い時を一緒に過ごしてきた母です。晩年、天気の良い日には縁側で庭をながめていたのを思い出します。お母さん、ずっとそばにいてくれてありがとう。そして守ってくれてありがとう。これから私達を見守っていてください。(原 加代)

編集後記

- 9月14日、作業所きらら旅行1泊コース
- と同日に日帰りコースも開催されました。
- 広島県立美術館でジグソの大博覧会を楽しみ、アトレットモービルでステーキを食べた満足顔の大澤さん。その頃、1泊コースに参加していた私は、行き道のサービスイリアのトイレに携帯を忘れた、全く写真が撮れなかったことがあり、反省してあります。今後は必ず携帯を忘れずにあります。(竹内 宏美)

